



取組加速化部門賞 受賞

誰でも使えるIT技術を最大限活用し、働きやすい職場づくり

株式会社フジヤマ

代表者	藤山義修
所在地	浜松市中区元城町216-19
設立年月	1967年4月
従業員数	360名(男性250名/女性110名)
事業内容	建設コンサルタント

取組みポイント

- 経営トップからの強いメッセージ
- 業務の棚卸し
- システム導入
- 時短・休日の拡充
- 推進プロジェクト導入

働き方改革のステップ

取組みのきっかけ

業界的にもノー残業デーを推奨する動きがあり、本格的に長時間労働環境の改善をはじめとする働き方改革をスタート。また、新入社員として入社しキャリアを重ね、これからという時期に退職する「若手社員の離職」が当社でも大きな課題となっていた。

目指す姿

多くの技術者とRPAが協働する次世代の業務消化体制を確立することが目標。今後、総務部内において若手女性社員による開発チームを結成し、「社員のやりがい・貢献意識」が生まれ、「会社の業績向上」に繋がり、夢と幸福に向かって社員と会社が共に成長できる「魅力ある会社」を目指す。

※RPAとは…Robotic Process Automationの略で、デスクワーク(主に定型作業)を、パソコンの中にあるソフトウェア型のロボットが代行・自動化するという概念です。

推進担当者からコメント

総務部 次長 白岩健司(右)
課長 田中丈士(左)



取組みの工夫、苦労した点など

RPAの優位性を全社員が理解するため、働き方改革に積極的な経営層と総務の推進担当が協働していきました。全社員が理解するためには、総務部においてRPA勉強会とエキスパート資格取得講座を定期開催し、早期技術者の育成に取り組んでいます。結果、アソシエイト資格者に4名が合格しました。

働き方改革 これからの課題と取組み予定

総務部業務(庶務・採用・管財・経理等)のRPA化、営業・実務系を含めた建設コンサルタント向けRPA化に取り組んでいくと同時に、中期経営計画に「働き方改革推進プロジェクト」を盛り込み、さらに加速化、多面化を進めます。

取組み内容

課題

「スーパーウェンズデー」の設定とリフレッシュ休暇の取得推進

アクション

建設コンサルタンツ協会の主導で始まった毎週水曜日の「ノー残業デー」だが、業務の都合により実施できないケースがあったため、会社独自で「スーパーウェンズデー」を設定。月1回の第2水曜日は、必ず定時で帰ることとした。リフレッシュ休暇(有給休暇3日)は土日と組み合わせて5日連休の取得を推進させた。

WEB会議システムが会社の文化に定着削減効果により更なるコミュニケーション向上を目指す

2018年9月、静岡・東京・名古屋の13拠点にWeb会議システム環境を構築。社内グループウェア連携などの創意工夫により、当社の文化として定着し、年間約1,600万円のコスト減に成功。その反面、直接顔を合わせてのコミュニケーション不足が課題となったことから、「社員誕生日会」を毎月実施している。

全社員を対象にした「働き方改革説明会」と基幹システム(営業・原価・財務)の全面改修

Web会議システムを活用し「働き方改革説明会」を全社員に向けて開催。また、基幹システムの改修による時間外労働申請の厳格化や、時間外労働時間の見える化を実施したことで、時間外労働に対する意識に変化が起き、時間外労働が月45時間を超過する人数(延べ)は前年と比べ65%ダウン。これに留まらず、さらなる時間外労働の削減を目標に取り組んでいる。

RPAには実践的な開発力が不可欠 RPAによる『稼ぐ総務』を目指す

RPA市場調査の結果、実践的なRPAの開発には有資格者の採用が近道と判断し、RPA資格保持者を2019年6月に採用。結果、10月末時点で13のロボットを内製化し、年間3,800時間の削減効果を見込んでいる。さらに、社員のスキルアップと資格取得推進のため、「RPA同好会」を発足させ、総務部は全員が参加して、RPA化できそうな業務の洗い出しを行っている。将来的には、自社で開発したRPAの販売による『稼ぐ総務』となることを目指している(RPAは販売契約権を取得済)。

成果や変化

現在、グループウェア上に「RPA情報交換フォーラム」を立ち上げ、全社員からRPA化に関する案件を募集中。これまでは営業・実務部署の中堅社員以上からの相談が多く、まだまだ若手社員からの相談が不足している状況。今後は社内研修の場を活用するなどし、若手社員の業務軽減に務め、入社3年以内の退職者「ゼロ」の達成と継続を目指す

ていく(2018年度0名(26名中)、2019年度1名(39名中)と、業界内では稀有な数値を実現)。勉強会の出席者からは「業務を見る目が変わった」「自分の業務をRPA化してみたい」「資格取得で自信がついた」「今後はさらなる資格取得とRPAの開発に向けて力をつけたい」等の声があがっている。



社内勉強会の講師はRPA認定技術者エキスパート鎌田教穂さん(右奥)